

企画展のご案内

LOVE&LIFE コレクションより愛をこめて

コ
レ
ク
シ
ヨ
ン
よ
り



愛をこめて

2022年2月26日 | 土 |
→3月27日 | 日 |

LOVE と LIFE。このふたつの言葉には、はっきりとした境界線がないかもしれません。愛を語れば命に繋がり、命を語れば愛に行き着く。分かち難く結ばれた愛と命について、新潟市美術館と新潟市新津美術館が所蔵する約 200 点の作品を通して見つめます。感染症の拡大によって、価値観や意見のすれ違い、そこから生まれる言葉の暴力が目立つようになったかもしれません。そんな今だからこそ、アーティストたちが様々なテーマを通して表現した、愛のかたち、命のかたちに、ぜひ触れてみてください。



①小幡正雄《結婚式》1996-2009年、色鉛筆・段ボール、新潟市美術館蔵



②木下晋《100年の視力》2001年、鉛筆・ケント紙、新潟市美術館蔵

展示構成 LOVE と LIFE という言葉から連想されるテーマに沿って作品を展示

「家族愛」「カップル」「母と子」「自己愛」「執着」…

草間彌生 (1929-) が謳う万物への愛は、網目模様として表現され画面を埋め尽くします。ウジェーヌ・カリエール (1849-1906) や オディロン・ルドン (1840-1916) は、穏やかな家族愛を柔らかいタッチで描きあげ、ピエール・ボナール (1867-1947) は愛しい妻が入浴する姿を見つめ続けました。小幡正雄 (おばた・まさお 1943-2010) は、1989 年から暮らした神戸の障害者支援施設で絵画制作に打ち込み、結婚式や一家団らんの様子など、自身が経験することのなかった幸せな愛の風景を描いています。

「生命」「生きざま」「人生」「死」…

谷川晃一 (1938-) は、自然のなかに潜む無数の生命のざわめきを愛らしいキャラクターで表現しました。鉛筆画の巨匠として知られ、NHK のドキュメンタリー番組でも取り上げられたことのある 木下晋 (きのした・すすむ 1947-) は、最後の瞽女 (ごぜ) として知られる小林ハルなど、障がいや加齢などによる困難と向き合う人々の力強い生き方を、鉛筆の濃淡による深みによって浮かび上がらせます。小山田二郎 (1914-91) は、人間が奥底に抱える死への意識を絵画としています。

「LOVE」と「LIFE」から連想されるテーマは、ときに重なり合いながら展示室中に拡がり美術館全体を包み込むことでしょう。感染症の拡大によって、人と人の直接的な繋がりが希薄になり、仮想世界でのやりとりが増えました。そんな今だからこそ、言葉だけでは表しきれない「愛」や「命」の表現と向き合ってみませんか。

本展のみどころ

① 新潟市美術館の名品が勢ぞろい！

草間彌生 (1929-)、木下晋 (1947-)、カリエール (1849-1906)、オディロン・ルドン (1840-1916)、パブロ・ピカソ (1881-1973) など、当館の誇る名品の数々が一堂に揃います。

② 特集「Long Life Artist」

常設展示室では、LOVE&LIFE 展の一部として、LIFE—人生—に注目した特集展示「Long Life Artist」を行います。篠田桃紅 (しのだ・とうこう 1913-2021)をはじめ、生涯をかけて芸術に力を注いだアーティストたちをご紹介します。愛に生きた画家 パブロ・ピカソ (1881-1973) は、91 歳で亡くなるまで、意欲的に制作に打ち込みました。年を取るごとに新たな表現を追求し続けたアーティストたちの生きざまが感じられることでしょう。

③ 新潟市新津美術館のコレクション 17 点を展示

新潟市新津美術館のコレクションより、絵本原画をはじめ、坂口綱男 (1953-)、式場庶謳子 (しきば・しよ おうこ 1927-2021)、穂苅春雄 (1934-2021) などの作品を展示します。

開催概要

展覧会名 LOVE&LIFE コレクションより愛をこめて
会場 新潟市美術館 企画展示室・常設展示室
会期 2022年2月26日(土)～3月27日(日) **※開場式・内覧会はございません**
開館時間 午前9時30分～午後5時(観覧券の販売は閉館30分前まで)
休館日 月曜日(ただし3月21日は開館)、3月22日(火)
観覧料 一般600円(450円)、大学生・高校生500円(350円)、中学生以下無料
※()内は、20名以上の団体、リピーター割引料金*
*本展観覧券の半券提示で本展2回目は団体割引
※障がい者手帳・療育手帳をお持ちの方および一部の介助者は無料(受付要提示)
主催 新潟市美術館
お問合せ先 新潟市美術館〔担当: 児矢野(こやの)あゆみ、菅沼楓〕
〒951-8556 新潟市中央区西大畑町5191-9
TEL:025-223-1622 FAX:025-228-3051 E-mail:museum@city.niigata.lg.jp

関連イベント

♥講演会『画家・木下晋 作品の世界を語る』

日時: 2022年3月6日(日) 午後2時～3時30分

講師: 木下晋氏(画家、出品作家) インタビュアー: 青木裕子氏(元NHKアナウンサー)

会場: 新潟市美術館 2F 講堂 ※要申し込み(定員100名)、聴講無料

往復はがきに、参加人数(1通につき2名まで)、参加者全員の氏名・住所・電話番号・「木下晋講演会」を明記の上、美術館(〒951-8556 住所省略可)まで、お申込みください。2月18日(金)必着。応募多数の場合は抽選となります。

♥美術講座『障がい者アートあれやこれや』

日時: 2022年3月19日(土) 午後2時～午後3時30分

講師: 前山裕司(当館館長)

会場: 新潟市美術館 2F 講堂 ※申し込み不要(先着100名)、聴講無料

※感染症対策として、ご来場の際に氏名・連絡先の提供をお願いいたします。

♥『LOVE&LIFE 愛と命をめぐる展覧会の、いろいろ』

日時: 2022年3月4日(金) 午後6時30分～午後7時30分

講師: 児矢野あゆみ(当館学芸員)

主催: 楓画廊 会場: 医学町画廊 studio(新潟市中央区東中通1番町86-19)

※要申し込み(定員12名)、参加費500円

※申し込み方法等、詳細については、楓画廊(kaedegaro@au.com)までお問い合わせください。

♥担当学芸員による作品解説会

3月13日(日)、20日(日) 各日午後2時～(30分程度)

※直接、新潟市美術館 企画展示室にお越しください。 ※当日の観覧券が必要となります。

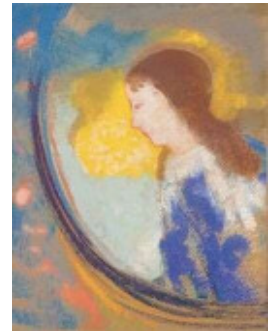
広報用作品画像一覧 (①、②は1ページ目に掲載)



③ピエール・ボナール《浴室の裸婦》
1907年、油彩・カンバス、新潟市美術
館蔵



④谷川晃一《森の記憶Ⅲ》1991年、
シルクスクリーン・紙、新潟市美術館蔵



⑤オディロン・ルドン
《丸い光の中の子供》
1900年頃、パステル・紙、
新潟市美術館蔵



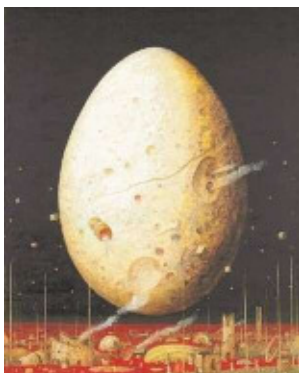
⑥小山田二郎《漂着物》1972年、油彩・
カンバス、新潟市美術館蔵



⑦草間彌生《南瓜》(左から、小 1983年/
中 1985年/大 1985年)、ミクストメディア、
新潟市美術館蔵



⑧草間彌生《自画像》1995年、
エッチング・紙、新潟市美術
館蔵



⑨猪爪彦一《祖父のたまご》
1996年、油彩・カンバス、
新潟市美術館蔵



⑩坂口綱男《安吾のいる風景—礼拝堂》
撮影：1982年、プリント：1983年、ゼラチンシ
ルバープリント、新潟市新津美術館蔵



⑪式場庶謳子《古代のヒト（母と子）》
1998年、木版・紙、新潟市新津美術館蔵

※キャプションは、**作者名・作品名・制作年・所蔵元**を必ず明記してください。難しい場合はご相談ください。

※トリミング加工をしての掲載はご遠慮ください。

※草間彌生作品については、美術館と草間彌生事務所での**記事校正（レイアウト確認）**が必要となります。

確認に1週間ほどかかる場合がございますので、時間に余裕をみてお申込みください。

「LOVE&LIFE コレクションより愛をこめて」

取材・チケットプレゼント・記事掲載申込書（FAX 専用）

FAX 送信番号：025-228-3051 新潟市美術館宛

- ◆取材、記事掲載時の作品写真（画像データ）及び読者プレゼント招待券を希望される方は、本用紙に必要事項をご記入の上、FAXでお申込みください。
- ◆記事内容は必ず事前に確認させていただきますよう、お願いいたします。
- ◆チケットプレゼントの提供は1媒体につき10組20名様を上限とし、本展をご紹介いただける場合に限りさせていただきます。
- ◆読者プレゼントの宛先は貴社とし、抽選、当選者への発送は貴社にてご手配ください。当館から当選者への発送はいたしません。
- ◆掲載された媒体は、2部ご提供ください。

○をおつけください	取材希望 ・ チケットプレゼント希望 ・ 記事掲載希望
貴社名	
ご担当者名	
ご連絡先	
ご住所 (チケットプレゼント送付先)	〒
メールアドレス (データ送付先)	
媒体名	
取材予定日	月 日 時頃 ・ 取材予定なし
取材スタッフ	計 名 (内カメラクルー 名)
掲載・放映ご予約日	月 日
チケットプレゼントご希望	組 枚 *1媒体につき10組20名様まで
通信欄 (ご希望の画像番号等、 お書き込みください)	